

木造牛舎の優位性について

～紋別市 公共牧場における木造牛舎の建築事例～

- ◆設置場所 オホーツクはまなす農協乳牛育成牧場
- ◆所在地 紋別市

◆概要

- 平成20年度にオホーツクはまなす農協乳牛育成牧場において、道営草地整備事業により6棟の木造畜舎が整備され、さらに4棟を整備予定
- 畜舎には、地域の森林から産出された森林認証材(SGEC)をふんだんに使用
- この取組を全道に情報発信し、鋼材から木材への部材の転換を促進



施設の概要

- ◆事業名・地区名 道営草地整備事業（公共牧場中核型） はまなす第1地区
- ◆実施年度 平成19年度～平成23年度
- ◆事業主体 北海道
- ◆整備施設 哺育舎2棟（180㎡、583㎡、H20に整備）
育成舎8棟（630㎡～1,774㎡、うちH20に4棟整備）
- ◆使用樹種 カラマツ
- ◆使用材積 約680㎡（H20年度）

木造牛舎建築の効果(育成舎 1棟(約1,430㎡)の場合)

¥ **建築費低減効果 約588万円 の低減**

鉄骨造牛舎	木造牛舎	差額
約3,890万円 (約2万7千円/㎡)	約3,302万円 (約2万3千円/㎡)	約588万円

※上記データは、鉄骨造と木造を比較するために一定の条件（建築面積約1,430㎡、部材単価はH20.10現在）のもとでシミュレーションした結果ですので、実際の建築物とは若干異なります。



炭素貯蔵量 約136t-C（カラマツ約680㎡）

→道民約1,600人が1年間に呼吸で放出する量を貯蔵